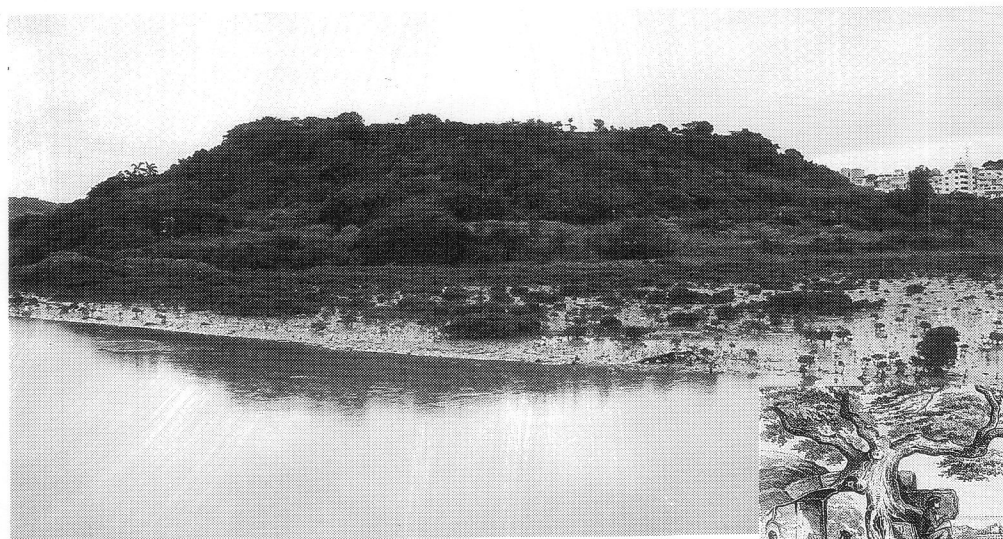


とみぐすく
豊見城グスク



豊見城グスク



ペリー一行の挿絵

豊見城グスクは字豊見城集落の北東側、標高約54mの漫湖を眺望できる琉球石灰岩丘陵上に立地しています。

グスクに関する伝承や記録は乏しいが、14世紀末～15世紀初頭に南山王の従弟、汪応祖がグスクを築き尚巴志によって落城したといわれます。

1719年には冊封使として訪れた徐葆光は荒れはてたグスクのようすを著に残しており、1853年にはペリー艦隊一行も訪れ城内より見た風景の挿絵を残しています。

グスクの遺構は城壁やアーチ門等が戦前までは残っていましたが、先の大戦や戦後の採石によって壊されてしまいました。また、1962年頃には民間企業によって「公園」として造成され、現在に至っていますが、漫湖側には城壁の一部と思われる石積みが確認されています。おそらく一帯には当時の生活跡が埋もれているものと思われれます。

グスク内には豊見瀬御嶽や穂花御嶽、殿、カーなどがあり旧暦5、6月のウマチーやハーリーウグァン、雨乞いの神事が行なわれ、王府編さんによる『琉球国由来記』と『琉球国旧記』にもハーリーウグァン、雨乞い時は豊見瀬御嶽を参拝すると記述されています。

